進んで生活をより良くする子どもを育てる家庭科学習

～実感を伴った理解を促す体験をとおして～

静川　郁子

本研究は，住生活の「快適な住まい方」において，子どもたちが，掃除の仕方を理解し，適切にできるようになることを目的とした実践である。「子どもたちが，汚れの落とし方について実感を伴った理解をすれば，学校でも家庭でも進んで掃除をするだろう」という仮説のもと授業を組み立てた。また同時に，汚れの種類・汚れ方に合わせた掃除ができれば，物を傷めずに長く使えることを理解し，子どもたちに持続可能な社会の担い手になって欲しいという願いを込めた。知識をより確かな物とするために，同時期に理科「水溶液の性質」を学習するようにカリキュラムデザインをした。

授業後のアンケートでは「掃除しだすと楽しい」「掃除の大切さが分かった」「自分が家の中で掃除を担当する場所ができた」と掃除に対する意識と行動に変容がみられた子どもは全体の１割であった。指導計画と評価の両面で長期的な視野をもたなくてはならないことが改めて浮き彫りになった。

キーワード：実感を伴った理解，汚れの種類，汚れ方，持続可能な社会，カリキュラムデザイン

１．研究目的

１．１．家庭科における掃除学習の現状

亀崎（2017）は，「家庭科教育で扱う 掃除道具や方法は，現代の住宅事情とは必ずしも合致しているとは言い難く，この現象が児童の家庭における実践に結び付かない要因の一つであるとし，現代の住宅事情に応じた掃除道具や方法を児童が考え，知ることは実践の継続には必要不可欠であろう」と示唆している。

また，西江（2018）は，「教員から使い方を教えてもらったことのある掃除用具は，雑巾・箒・黒板消しが多くの割合を占めたが，それらは家庭での使用頻度が少なく，そのうち雑巾や箒の使用法を低学年で教えてもらったとする児童が40.9%～70.1%で，正しい使い方を習わぬまま学校の掃除を行っている児童がいることが明らかとなった。」としている。

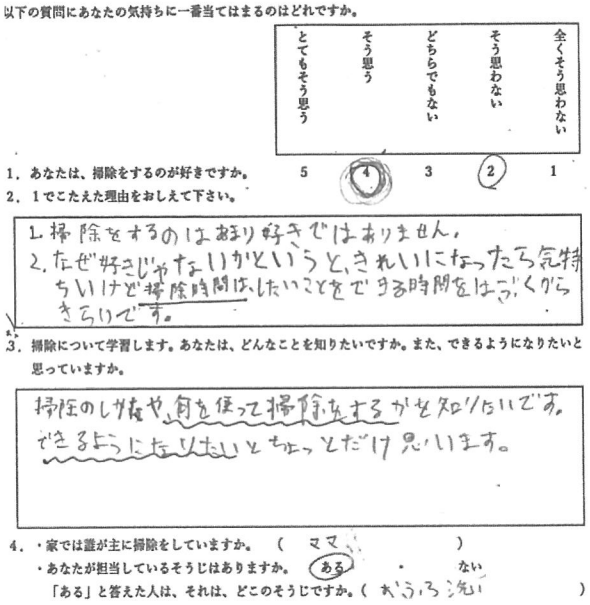
１．２．アンケートからみえる子どもの実態

１．２．１．掃除をする子ども・しない子ども

本校６年生 96 名に掃除に関するアンケートをとった（図 1）。

表１は質問項目１の結果である。「どちらでもない」「嫌い」「とても嫌い」と回答した子どもの多くは，「汚いのは嫌だけど，めんどうだから」と書いた。

また，質問項目４の回答から，自分が掃除する場所が決まっている子どもは全体の 37%であった。つまり，全体の６割の子どもたちにとって，掃除とは，特別活動の時間に行われる 10 分間の清掃活動だけということになる。


以下の質問にあなたの気持ちに一番当てはまるのはどれですか。

	とてもそう思う	そう思う	どちらでもない	そう思わない	全くそう思わない
1．あなたは、掃除をするのが好きですか。	5	4	3	2	1

2．1でこたえた理由をおしえて下さい。

1. 掃除をするのはあまり好きではありません。
2. なぜ好きじゃないかというと、きれいになったら気持ちいいけど掃除時間はしたいことをできる時間をはばくからきらいです。

3．掃除について学習します。あなたは、どんなことを知りたいですか。また、できるようになりたいと思っていますか。

掃除のしかたや、何を使って掃除をするかを知りたいです。できるようになりたいとちょっとだけ思います。

4．・家では誰が主に掃除をしていますか。（ ママ ）
・あなたが担当しているそうじはありますか。 ある ・ ない
「ある」と答えた人は、それは、どこのそうじですか。（ おふろ洗い ）

図１　アンケート回答用紙

表１　「掃除は好きか」

とても好き	８人
好き	２０人
どちらでもない	３４人
嫌い	２０人
とても嫌い	１２人

それでは，特別活動に位置する清掃活動とは，どのようなねらいのもとで行われるものか。新学習指導要領において特別活動に位置する清掃活動は，「社会参画意識の醸成や働くことの意義の理解」を促すための活

動となっている。

一方，家庭科における「清掃」とは，一体何であるのか。それは，快適に住まうために必要な知識・技能であり，家庭科学習の中で身に付けなければならない資質・能力である。

また，掃除が「とても好き」「好き」と答えている子どもは，自分の掃除する場所が決まっているという事が分かった。それらの子どものうち67%が，風呂を掃除し，自分の部屋を33%の子どもが掃除しており，「掃除の仕方を知りたい」という問題意識をもっていた。

質問項目２の記述から，子どもたちは，掃除をするとすっきりして気持ちがいいのは分かっているが，掃除をするのであれば，他の事をしたいといった内容が多かった。

質問項目３「掃除について学習します。あなたはどんなことを知りたいですか。また，できるようになりたいと思っていますか」について具体的に記述しているのは，家庭で自分の掃除場所がある子どもであった。

１．３．研究仮説

家庭の実情にあった汚れの落とし方を，子どもたちが，実感を伴った理解をすれば，家庭にある汚れについても進んできれいにしていく実践力を培うことができるだろう。

「この汚れには，どのような掃除をすればいいのかな」と探究できる学びにすれば，状況に応じた掃除ができるようになるだろう。

２．研究の方法

学習後にも，図１のアンケート回答用紙を用いた。子どもの掃除に対する意識や家庭での変容をみることにより，本研究の評価とした。

単元を以下（表２）のように進めた。

表２　単元構成

単元計画（全５時間）
第一次（１時間）
・掃除の必要性を理解する
・汚れ調べをする
第二次（２時間）
・汚れの落とし方を考える
第三次　（２時間）
・我が家のクリーン大作戦！

「なぜ掃除をしなくてはならないのか」から考え，掃除の意義を実感させることから始めた。そのために，ビデオクリップ（NHK for school「きたない部屋はイカがなものか」から，「ほこりの動き」）を活用した。

授業構想の時点では，子どもたちの目の前で，目に見えない汚れを可視化しようと，ブラックライトやポラリオンライト（※）を活用しようと試したが，暗幕のない家庭科室や教室では，効果的に使用する事が難しかった。

次に家庭科室の汚れの種類と汚れている場所を調べた。家庭科室には，子どもたちの家の汚れがあるからだ。そこで，子ども自らが掃除方法を考え，実践し，うまくいったか検証した。ここで，子どもたち全員が体験できるように，扇風機の羽とカバーを使うことにした。理由は２つあり，１つは，授業の時期が夏の終わりで，ちょうど扇風機を掃除する時期であったこと。２つ目は，羽一枚一枚に付いた汚れを，いくつかの掃除方法で試し，その効果を比較できると考えたからだ。扇風機とカバーは，お便りで各家庭にに呼びかけ，子どもたちに家から持って来てもらった。

単元の最後の授業では，家庭での掃除の課題「わが家のクリーン大作戦」を出した。授業では，子どもたちが，掃除しようとする場所の汚れを一緒に考え，それらの性質をアルカリ性と酸性に分けて示した。

また，この課題は必ず「家族からの感想」をもらうようにした。家族から感謝されたり喜んでもらったりする経験が，次の実践力となると考えたからだ。

※　シーズーシー有限会社の製品

３．授業の実際

「動かなくなったホコリの掃除の仕方を考えよう」（第二次　1/2時間目）身近な汚れの１つであるホコリの性質を知り，ホコリだけの時には，できるだけ舞わないように取り，複合的な汚れになった時には，どのようにとればいいのかを考えるのが本時の活動のねらいであった。

教師　持ってきてくれた扇風機はどこに置いていた物ですか。
太郎　畳の部屋。
晴雄　リビング。
次郎　リビング。
聡汰　自分の部屋。
浩二　自分の部屋。
教師　このような場所に置かれていた扇風機です。付着している汚れはどんな物と考えられますか。扇風機を観察しながら考えましょう。
（４人グループで観察し，汚れについて話し合う）
舞子　ホコリ。
晴雄　リビングにキッチンもあるから，油もある。
聡太　布団とかから出たホコリ。
教師　晴雄さんが言ってくれたように油で固まってしまったホコリはどのように掃除したらいいかな。
浩二　水拭き。
舞子　はたいて水拭き。
加奈　はたいて水洗いして洗剤で洗う。
奈津　「はたく」やったら上に舞うから。

教師　奈津さんが言ったような理由，どうしてこの方法がいいと思ったのかな。

加奈　はたいたらホコリは，舞うし水だけやったら細かい汚れ取れへんから。

教師 みなさんも，どうしてその方法がいいのか考えな柄試しましょう。

（4 人グループで扇風機の羽とカバーの汚れを落とした。

（図２・３のワークシートに書き込まれた結果をそれぞれの班がホワイトボードに記入した）

教師　どうしてこのような結果になったのだろう。

佐奈　水が付くとほこりがふわふわせずに取れやすくなる。

勝哉　水拭きが一番良かった。

晴雄　はたいたら広がって逆によくない。

朝陽　はたくが△なのは，ホコリがまって床も掃除しないといけなくなるし…。

明美　吸い取るなんやけど取れるのはとれるけどべたべたしたのは無理だった。

絢子　水つけたらほこりがしっとりして取りやすかった。

舞子　水拭きは力を入れたらとれる。

図２　道子の「動かなくなったホコリの掃除の仕方を考えよう」

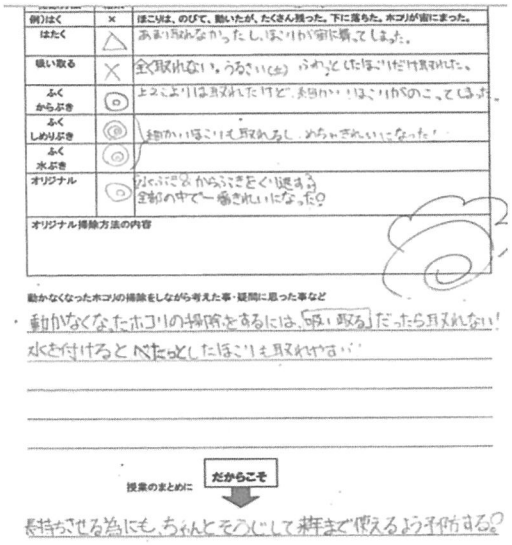


図３　朝陽の「動かなくなったホコリの掃除の仕方を考えよう」

奈津 の「『はたく』やったら上に舞うから」という発言は，ホコリの舞うという性質を考慮している。また，加奈子の「はたいて水洗いして洗剤で洗う」と「はたいたらホコリは，舞うし，水だけやったら細かい汚れ取れへんから」という発言は，油と合わさってしまった状態のホコリに対して，水を使うだけでは取りきれないという認識を示している。

道子は，布がホコリを絡みとっていることを実感している。また，オリジナル掃除方法を「水拭きした後に乾拭きを繰り返すを実践したら，すごくホコリがとれた」と，掃除の手順についても試しながら確かめている。また，ホコリが固まってしまう前に「こまめに掃除をしなければならない」というまとめに至っている。

朝陽も「動かなくなったほこりの掃除をするには，吸い取るでは取れない。水をつけるとベタっとしたほこりも取りやすい」とし，動かなくなったホコリを材から離すには，水を媒介にすると取れることを実感している。また，生活道具である扇風機について「長持ちさせる為にも，ちゃんと掃除して来年まで使えるように予防する！」とまとめている。

4．授業の考察

子どもにとって身近な汚れであるホコリを観察し，ホコリの性質を実感しながら掃除を行ったことは，家庭の実情に合った掃除ができるようになる手立てであった。しかしながら，教師が用意した掃除方法が５つであったため，オリジナルの掃除方法を試す時間がなかった。また，「どうしてその方法がよかったのか」とグループで話し合う時間もなかった。

5．成果と課題

5．1．成果

ワークシート「わが家のクリーン大作戦！」は，子どもが各家庭で実践した掃除活動を記録するものである。子どもたちは，普段から気になっていた場所の汚れを選び，それらの汚れを落とす実践をそれぞれ家庭で行った。

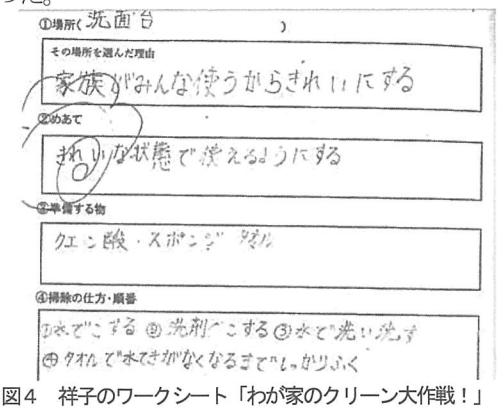


図４　祥子のワークシート「わが家のクリーン大作戦！」

図４から祥子は，水垢がアルカリ性であると分かっ

た上で，クエン酸を使っていることが分かる。また，感想の欄には，「すみずみまできれいにするのは大変だから，自分はあまり汚さないようにしようと思いました。いつもそうじしてくれる人の気持ちが少しわかりました。」とう記述があった。使いながらきれいに保とうとすれば，掃除も大変にならないという気付きであり，家族の一員として生活をより良くしようとしている行動だと言える。

図5　重曹を使って汚れを落とそうとする様子

図6　弱アルカリ性洗剤を使って汚れを落としている様子

図5・6は，第2次2時間目「換気扇の汚れを落とそう」という課題での授業の様子である。この1時間は，環境に配慮した洗剤をつかってもいいということにしたのだが，子どもたちは主体的に汚れを落とそうとしていた。水拭きだけでは落ちなかった扇風機の汚れも，弱アルカリ性の洗剤を薄めて使い，最後まできれいにしていた。これは，理科で学習した「水溶液の性質」での知識も活かせ，かつ前時までの活動で実感した固まったホコリの取り方も活かせたからであろう。
つまり，カリキュラムデザインは有効に働いたと言える。

図7の様に，特別活動の時間である掃除の時間にも汚れている個所に注目し掃除をしようとする子どもの姿が見られた。雑巾を使った水拭きだけでは落ちなくなった汚れに注目し，この汚れは何であるのかを話しながら試行錯誤の中，汚れを落とそうとしていた。「汚れが何から構成されているのか」を考えること自体が，実践力につながるだろう。

図7　清掃時間の掃除の様子

5．2．課題

5．2．1．焦点化

一口に「汚れを取る」活動と言っても，そこにはいろいろな要素が絡んでいる。それらの要素を整理し，子どもたちに，45分で何を理解させ，何を出来るようにさせたいのかを明確にしなければならない。本実践では，ホコリに注目しそのホコリの状態によりどのような掃除方法が適切かを考えてきたが，掃除の順番に焦点を当てるのか，汚れが付着している材に焦点を当てるのか，それとも道具の使い方や雑巾の水分量，洗剤の濃度などなのかという整理が必要であった。

5．2．2．指導計画

アンケートの質問項目3「掃除について学習します。あなたはどんなことを知りたいですか。また，できるようになりたいと思っていますか」で，具体的に記述しているのは，家庭で自分の掃除場所がある子どもであった。このことから，改めて家庭との連携の必然性を知った。本研究では，手立てを講じられなかったが，家庭で子どもが責任をもって掃除する場所を決める課題を年度の初めに出しておけば，すべての子どもにとって掃除が自分事となったのではないだろうか。自分のしたことが，家族の役に立っていると実感する機会があれば，掃除に対する意識も変わるだろう。

参考文献

西江なお子 (2018)「家庭科における見えない汚れを可視化する掃除学習の有効性」人間教育,1(4),113-121
亀崎美苗(2017)「生活行為としての掃除の在り方に関する一考察 ―家庭および学校教育における掃除の位置づけを概観して―」埼玉大学紀要 教育学部第 66巻(2)，109-116
泉　一代 (2017)「物を生かして住みやすく～そうじはまかせて！クリーン大作戦～」和歌山県小学校家庭科教育研究会東牟婁地方大会研究収録p.18－p.25